



## エジプトで反政府デモ拡大

### 注目されるムバラク政権のゆくえ

チュニジアで独裁政権が崩壊したあと、エジプトでも反政府デモが連日拡大しています。

エジプトはムバラク氏の大統領就任以来ずっと30年も非常事態令が出されたまま。いわば治安維持法体制下が続いているような状態。言論の自由も保障されず、反政府活動と認定されれば逮捕される。識字率が低く(30%とか70%とかネットの情報もさまざま)所得は1日2ドル以下の国民が2割越すというような貧困の中で自由の制限。

その独裁体制をアメリカなどが、お決まりの多額の経済援助で応援してきました。それはアラブ諸国の中でイスラエルを承認する親米派の中心として政権を維持して欲しいからです。そうした矛盾が隣国の政変をきっかけにいま噴出しています。

アラブ世界の中に手を突っ込み、無理やり作ったイスラエルという国の無法や、エジプトの独裁、腐敗したイランの親米旧政権などを支えてきたのがアメリカであり、その戦略にアラブ諸国の不信、不満があり、対立の根源があります。イスラム教徒とキリスト教の対立のような単純な図式ではないことがますます明らかになっています。

### 外国からも注目されている憲法9条

2008年の「9条世界会議」に向け特集出版された「5大陸20人が語りつくす憲法9条」の中でロラン・ベイユ氏(フランスで平和運動を続ける弁護士)が語っている言葉の一部をご紹介します。



### すべての国に九条を

ロラン・ベイユ

1975年のヘルシンキ会議の最終文書(ヨーロッパの政治経済協力に関する会議で、現在の欧州安全保障協力機構OSCEの前身を形作ったもの)を思い出すことは少しも無駄ではありません。この文書は、当時のヨーロッパのすべての政府が署名しました。当時は、現実には東西ブロックが対立していましたが、相互査察などの信頼醸成措置の手続きにより、軍縮計画を見通していました。

そのような精神に基づいて、世界の憲法はすべて、日本国憲法九条を取り入れるべきです。すべての国がもはや戦争を行わないと誓い、軍備こそが国家存立の理由だとはしないで、軍隊を廃棄するならば、世界平和の実現は確実です。これこそが、国連憲章に宣言されていながらもまだ適用されていない新しい国際法にほかなりません。

そのためには、人びとの共同のたたかいによるほかありません。このような共同のたたかいは、国連憲章の前文からみるとまことに正当であります。憲章の前文は、「われら人民は……」で始まり、「われらの努力を統合することを決意し」と続け、最後に「われらの政府は……」と結んでいます。これは憲章の根本哲学を明白に指し示すものであり、それは、平和を人民の手中に委ねて、その人民こそ主権者であると明言しています。国連は、人びとがみずからの努力を統合することを助ける機関であり、政府は人びとの代表にほかなりません。「すべての国に九条を」と求めて、世界の人びとをその方向に導く私たちの活動はまったく正統です。むしろ、そうする責任が私たちにはあります。

私たちは、以上のことにかんがみ、九条の改憲に反対して、すべての国の憲法に九条を書き込むために、連帯運動を発展させるよう呼びかけます。

## 語り継ぎたい東京大空襲

たまたま声をかけていただいた流山在住の K さんから、ぜひ大空襲を語り継ぎたいとお話があり、インタビューして伺った内容をここに書かせていただきました。(高橋)



B29

### 亀戸の火の海を生き延びて(1)

K さんは昭和 19 年、専門学校生徒だったが、政府の動員で「研修」という名目で、徴兵された人々の代わりに鶴見の鉄道で働いていた。艦載機による米軍の掃射を何度も受けたという。米軍機から落とされる焼夷弾は、路上で跳ね返り家屋に火がつく効率のよいものであったのに、日本は家屋を竹やりで壊して火事を防ぐ有様だったという。

亀戸に住んでいた K さんは三月十日、午後十一時過ぎ、向島から火の波が押し寄せ、寄せるのに気がついた。火が自宅近辺に至り、K さんは母と共に大通りに出ようとする。しかし、火に追いかけられた人の波は「ウオー、ウオー」という轟音とともに流れてくる。裏手の回り道に逃れたのだが、そこで母とはぐれてしまう。火を逃れようとして人々は、亀戸駅の高架に向かってひたすら進んでいく。燃える物がない空間はそこだけだからだ。しかし高架の向こうも火の海になっている。人々は判断力はなく無我夢中で逃げ回るだけ。人の行く方に行く。同じ所をぐるぐる回る。そんなわけがわからない行動をとる。

K さんが亀戸駅につくと階段は人ですでにいっぱい。小名木川貨物線と客車が分離交差した空き地があったので、たどりつくと、そこにうずくまった。煙と火の粉で遠くは見え、火の粉の力で物が飛んでくるので、そこでただうろろうろしていた。

やがて明け方になるとすべてが燃え尽き火の海は収まった。駅の階段を下りると死人だらけ。煙で窒息した人、火の粉に飲まれた人、電線で感電した人、特に防火水槽で亡くなった人が多く、子供を抱いた人もいたという。川に入って溺れた人もたくさんいたらしい。K さんが言うには

「逃げる時は、真っ暗で何も見えない。あるのは火の粉だけだから」(次回につづく)

## 世話人紹介 三原真子さん(東初石)

私は発足当初からの世話人の一人です。戦時下の記憶は、そう多くはありません。

しかし、戦後に続く、悲惨な影響は忘れ去る事は出来ません。

私はクリスチャンの一人としての立場から参加しています。

9条が改憲されてしまえば、個人個人の生き方の、真の自由が認められない国になってしまうことを恐れています。

## 募集・

池田香代子さんの講演の当日(5/14)、プロローグとして「世界がもし100人の村だったら」をみんなで朗読しませんか? ただいま企画中。たくさんの方の参加を呼びかけます。

(連絡先 土屋 7103-2086)

## 定例駅宣伝

2月は 9日(水) 15:30~16:30

流山おおたかの森駅

## 1月は成人式で

1月9日、文化会館で流山市成人式が行われました。今年の新成人は平成2年から3年生まれで、市内では、男738人、女667人、計1405人が晴れて成人となりました。

九条の会・流山では当日会場付近に九条の会ののぼりを立てて若者たちにチラシを配布しました。

今回は開会前の時間帯を選び、9時半から集まってくる人たちに宣伝することにしました。例年の終了後の時間は若者たちが久しぶりの再会に語らいに夢中でなかなか解散とはならず、手渡すのが難しいため変更してみました。とくに目立った反応はありませんでしたが、若者たちは素直にチラシを受取っていました。参加者は7名。

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山